

県議会 カジノ誘致を阻止



無記名投票の開票



4月20日の臨時県議会本会議で、和歌山へのカジノIR誘致が反対22、賛成18で否決されました。

IR推進法の成立以来まい進してきたカジノ誘致計画はつぶれました。



奥村規子県議

日本共産党の奥村規子県議は4月18日、本会議で質疑しました。

奥村県議は、公聴会や住民説明会、パブリックコメントでは多くの反対意見が出されたことを指摘。県民合意を得られていない計画を国に申請

すべきではないと訴えました。

また、シンガポールのIRでは年間来訪者6500万人でカジノ売上3700億円の実績に対し、和歌山IRの650万人で1900億円というのは過大な見込みであると、空想的な計画を批判しました。



高田由一県議

高田由一県議は、IR来訪者の8割が日本人と想定され、これまでの県内観光客が取り込まれるマイナスの経済効果を指摘。また、40年の事業期間に政治の情勢で事業をやめるとなった場合に、県が損害賠償する可能性を追及しま

した。

さらに、国の認定後でないと公表されないはずの実施協定の内容を、和歌山市議会で当局が答弁していることを指摘。県議会での採決前に、概要を公表すべきと訴えました。

本会議で反対票を投じる
杉山俊雄県議



IR対策特別委員会採決結果

	共産	自民	改新	公明	計
反対	2	7	0	1	10
賛成	0	2	2	1	5



楠本文郎県議

楠本文郎県議はIR対策特別委員会で質疑しました。当初計画2800億円から4700億円に膨張し、国際会議場は9,000人規模に増え、しかも年24回も想定。親子連れもUSJなみに来場するとしており、大阪IRとの競合を想定しない無謀な計画と指摘。

仁坂知事は「大阪とは相乗効果が発揮される」と答弁しました。



和歌山 IR 区域整備計画の県議会での 否決にあたっての声明

このたび4月臨時県議会において、和歌山IR区域整備計画についての議案が反対多数で否決されました。これまで住民投票を求める運動やカジノ反対の声をあげ続けた県民のみなさんの声が、県政や県議会を動かした結果です。この計画の当初から反対を表明してきた日本共産党県議団はこの採決結果を歓迎するものです。

また、本来はIRに賛成の立場だったにもかかわらず、「今回の計画はあまりにもずさん」と、私たちとともに反対の態度をとった議員にも敬意を表したいと思います。

この顛末の最大の問題点は、何よりもカジノを含むIRというたった一つの施設に和歌山県の将来を託すという知事の政治姿勢です。これこそまさに「賭け」です。そうした「賭け」よりも、従来にも増して観光産業や地場産業、農林水産業など県内産業の底上げに力をいれてこそ和歌山県の未来は開けると私たちは考えます。IR計画の否決を受けて、その方向に舵を切りなおすときです。

今回、否決された区域整備計画は、コロナ禍や世界情勢の変化を考慮にいれていないあまりにも過大な来場者予測、収益予測に基づく空想的とも言える内容になっていました。とても現実味があるとは考えられませんでした。

また、ギャンブル依存症でもきちんと対策をやれば逆に減らせるとしていました。よく例としてあげるシンガポールでは、確かに国民のギャンブル依存症率は減らせたようですが、自国民の多数を自主的あるいは強制的にカジノから排除して達成した結果です。外国人客がほとんどを占めるシンガポールのIRではそれができて、和歌山IRでは8割が日本人客を想定していました。そうした想定の下で、依存症疑いの客を徹底排除すれば、カジノ収益は減少し、ビジネスモデルとして成り立たなくなります。その結果、ギャンブル依存症対策を緩めることにつながっていく心配がありました。

さらに地域経済に与える影響です。年間650万人を集め、そのうち8割が日本人客という和歌山IRができれば、建設需要などで一部業界は一時的に潤うかもしれません。しかし、お客の囲い込みによる周辺地域の経済的な疲弊に加え、県内観光地への影響も心配されました。

以上のような問題点をかかえ、多くの県民が納得していないのが今回の和歌山IR計画でした。最後に、これまで和歌山IR計画反対のため、協力いただいたすべての方々に感謝を申し上げ私たちの声明とします。

2022年4月25日

日本共産党和歌山県議団